

第76回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、平成27年度JSPS科研費 26284010助成「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」（基盤研究（B））「出土資料と漢字文化研究会」との共催です。

出土文字資料と先秦礼学史の 再構成をめぐって

発表者：末永高康准教授（広島大学大学院）

郭店楚簡や上海楚簡等、近年の新出土資料は、両戴記の資料性に対するわれわれの認識を大きく変化させています。緇衣篇や孔子間居篇など、従来は戦国最末期以後の成立であろうと推定されていた諸篇が、戦国期の写本として現れてきたからです。両戴記の諸篇の成立はどうかこれまで想定されていたものよりもかなり早いようです。しかしながら、両戴記各篇の資料的性格を再検討する議論は、新出土資料と関連の深い少数の篇を除いては、現在でもそれほど十分におこなわれているわけではありませんし、先秦・秦・漢期の礼学史の再構成をめぐる議論もまた活発であるとは言いがたいのです。そこで本発表では、1959年出土の武威漢簡『儀礼』をはじめとする新出土資料の知見にもとづきながら、先秦礼学史の再構成をめぐるいくつかの問題点について検討を加えていくことにします。

第76回目を迎えた今回の研究会は、末永高康准教授（広島大学大学院）が発表を担当します。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日時：2015年11月14日（土）午後2時～午後5時

場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館2階219教室

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料

連絡先：東京都練馬区中村南1-12-5
東京大学名誉教授 池田知久 電話 03-3926-8568